

# 2016 准看護師アンケート集約結果から見てきたもの

2016年4月20日

神奈川県医療労働組合連合会

執行委員長 土谷 正明

神奈川移行教育をすすめる仲間の会

代表委員 松原 文江

横浜市中区桜木町 3-9 横浜平和と労働会館 3階

TEL 045-228-7704

FAX 045-228-7717

## はじめに

現在日本の就業看護職員 157 万人以上、うち准看護師 39 万 7000 人以上(25%以上)、神奈川では就業看護職員 66000 人中准看護師は 12,000 人 18%である。

移行教育をすすめる仲間の会は、2013 年県内の准看護師アンケートを取り組んだ。

2015 年 7 月、2 年課程通信制の入学要件・経験 10 年の短縮かと報道された。

このような中で、再度准看護師の生の声を集約することを目的に 2 月から県内すべての医療機関の准看護師を対象にアンケートに取り組んだ。

4 月 15 日までに 145 名の回答が寄せられたので集約をした。

## アンケートの配布及び集約方法

県内すべての医療機関の看護部長に配布を依頼し、回答は個別に返信用封筒を添付し返信・封書で回収した。

## 結果

### 神奈川県内ほとんどの准看護師養成所がなくなる事について

神奈川県内の准看護師養成所がなくなる事(N=145)		
知っている	80	55.17%
知らない	65	44.83%

知っているとの回答が知らないを 11 ポイント上回った。

どこで知ったか(N=80)複数回答		
新聞	23	28.75%
テレビ	18	22.50%
看護部長	8	10.00%
組合など	10	12.50%
その他	25	31.25%

### 2 年課程(いわゆる進学コース)とその通信課程について

通信課程(N=145)		
知っている	140	96.55%
知らない	5	3.45%

通信課程養成校の県(N=145)		
知っている	86	59.31%
知らない	57	39.31%
NA	2	

2 年課程学校減少(N=145)		
知っている	65	44.83%
知らない	80	55.17%

2 年課程通信課程についてはほとんどが知っていると回答したが、養成校の所在地は 59%が知っていると回答。また、2 年課程通信養成校が減少していることは半数以上が知らないと回答した。

### 2 年課程通信には放送大学の単位修得が必要なこと、入学前に単位修得できることについて

放送大学単位修得(N=145)		
知っている	102	70.34%
知らない	43	29.66%

入学前に単位修得(N=145)		
知っている	74	51.03%
知らない	71	48.97%

放送大学の単位修得が必要な事は 7 割が知っていると回答したが、2 年課程通信入学前に単位修得が可能な事は半数が知っていると回答。

## 入学要件の修業年限短縮報道について

就業年限短縮報道(N=145)		
知っている	70	48.28%
知らない	75	51.72%

知らないの回答が知っているをやや上回った。

2年課程通信制の入学要件・准看護師実務経験が短縮になったら、2年課程通信制への進学を考えるかの問いには、ほぼ同数と回答。

考える	68	46.90%
考えない	66	45.52%
NA	11	

進学を考えるグループと考えないグループで修業年限短縮・入学前の単位修得、養成校の所在等の回答に違いがあるかを見た。

N=68		
進学考え・年限短縮知ってる	43	63.24%
考える短縮・知らない	25	36.76%
N=66		
考えない・短縮知ってる	23	34.85%
考えない・短縮知らない	43	65.15%

N=68		
進学考え・前単位修得知ってる	44	64.71%
進学考え・前単位修得知らない	24	35.29%
N=66		
考えない・前単位修得知ってる	21	31.81%
考えない・前単位修得知らない	45	68.18%

N=68		
進学考え・どの県にあるか知ってる	47	69.12%
進学考え・どの県にあるか知らない	21	30.88%
N=66		
考えない・どの県にあるか知ってる	31	46.97%
考えない・どの県にあるか知らない	33	50.00%

進学を考えているグループは修業年限の短縮報道も知っており、放送大学の入学前単位修得についてもどこにあるかも知っていると回答。つまり困難な状況の中でも、さまざまな状況をとらえて情報収集していることがうかがえる。

## 准看護師としての率直な思い

思い(N=145)・複数回答		
賃金低い	103	71.03%
役割限定	48	33.10%
研修少ない	28	19.31%
その他	4	2.76%

ここへも36名から自由記載があった。賃金、役割限定の具体的な内容、矛盾が記載されていた。准看護師教育の矛盾と現場の中での研修の機会の少ないこと、看護現場の中で行われているキャリア形成・ステップアップシステムから外されている准看護師の実態が記載されていた。それでも看護チームとして日々活動している悩みが記載されていた。

次に自由記載について…122名の記載があった。

## 現在通学中・卒業した人からは…21名の記載

県内に養成校がほしい。准看護師で働いている方で学校に行きたくても遠いので行くのをためらってしまう人もいます。見学実習ではなく、もつと患者さんに寄り添いたい。同時に実習を短くして。放送大学の試験回数を増やして。

病院から進学への理解が取れ、無事に卒業することができたので、後に続く人にも、学校へ行く資金と時間と職場の理解他職員の助けがあれば実現すると思うと寄せられた。

一方、カリキュラムがかなりきつい。仕事をしながら、10年以上の経験も含めて考えてほしい。等、学校と実習場、職場の中で苦しみながら、頑張っている姿が浮かび上がり経済的な支援の必要性が明らかになった。

## 全ての准看護師が看護師になるために何が必要か…88名の記載

設問の意図が明確ではなかったためか、看護師との比較で准看護師に不足しているもの・現在何が必要かと受け取った回答と、いわゆる移行教育・移行のために何が必要かとの回答の2つに分かれた。

准看護師に不足しているものとして、学力・知識・アセスメント能力・研修などが記載されていた。

移行のためにとして、2年課程通信の養成所の増設、国が経済的・時間的支援を、勤務しながら学び続ける環境の整備(時間・お金・周囲の協力・特別休暇・学習環境・保育所など34名)と同時に自分自身のやる気と記載されていた。2年課程通信制が始まって10年の中で、根本は准看護師養成停止、看護制度一本化との記載もあった。2年課程と同じ単位の修得や、一定の経験年数で看護師に移行すべき、経験年数で看護師の国家試験受験資格をの記載もあった。

## 施設で進学のために優遇されている事…74名の記載。

奨学金43名、勤務上の配慮40名、休暇、出張扱いの記載がある一方、奨学金に年齢制限、病院として何もないと、それぞれの医療機関によって違いが大きいことが明らかになった。

## 行きたいけどいけないという方…72名記載

今回は、経験年数や年代等は問うてはいないが、勤務経験10年以上で職場・家庭・社会的にも経験を積み、自分の学業にだけ専念できない状況の背景が浮かび上がった。

学費、学習時間、生活を抱えている経済的な支援、現在の雇用が守られる等の記載が65名を超えていた。

また、通信制であるがゆえに、勤務しながら通学、実習できるようにと近くに養成所・実習施設を望む声が、数多く寄せられた(30名以上)。

家庭を持ち、子育てしながら、家庭の経済的柱であるが故の課題、有給休暇は自分のためには使えず(子ども家族の看護のために)との記載も10名以上あった。

実務経験年数の短縮、職場、勤務上の配慮、研修としての位置づけを望む記載も多くあった。

職場の現在の人員不足の中では、スタッフ不足の中で難しいとの記載もあった。

また、自分自身の学力についての不安も記載されていた。

10年以上経験者は希望者全員が無条件で進学ができるようにとの記載もあった。

期限を定めた上で行ける時に受講、単位で卒業、国家試験受験資格をとの記載もあった。

## その他なんでも…52名記載

准看護師経験10年以上という社会的・家庭的・経済的にも中心的な役割の中で、自分の資格取得に費やせず機会を逸したとの記載が、11名。

年齢的にギリギリ。看護師になれてもその先が心配だが機会があれば学校に行きたいとの記載もあった。

学校を増やして、学校も交通の便が良いところがあればスキルアップしたい、働きながら行ける学校をもっと増やしてほしい、県の奨学金制度をもっとわかりやすく知らせてほしい、実習やスクリーニング、面接といわゆる授業料だけでなく、通学費、滞在費を含めた経済的に苦労しながら通学している人、職場の仲間を見ている生の声が20名近く記載されていた。

准看護師から2年課程卒業後、新卒看護師としての賃金になり、実質賃金ダウンの矛盾が記載されていた。

チームの中で、看護師准看護師と資格の違いが、差別の構造になっている実態の記載もあった。

自己学習に取り組んでいる記載、2年課程卒業し、看護師になった、仲間の会の小論文や夏季集中講座の学習会に参加し、学びになった、もっと広げてほしいとの記載も寄せられた。そして、学んだ経験から、全ての准看護師が看護師になってほしいと記載されていた。

一方准看護師養成所が閉校になることについて看護師不足への懸念の声、長い間の制度問題の遅々とした歩みの中で、諦めに似た声、職能団体への声も寄せられた。

学びたいし看護師になりたいという気持ちはあるが、現実として難しい状況にある准看護師の事をもつと

考えて検討してとの記載があった。

なによりも准看護師から看護師になるための2年課程(通信を含む)が年々減ってきていることは、方針と違うのではないかと記載されていた。

「正看になりたい!!」とはほとんどの准看が思っている。今よりもとりやすいシステムになるのを待ち望む」という記載は現場の准看護師の共通した思いである。

### アンケート結果の要約

- ①神奈川県内の准看護師養成所がなくなるについて知っている人は55%。
- ②2年課程通信についてはほとんどが知っており、59%が養成校の所在地を知っている、しかし2年課程通信養成校の減少は半数以上が知らないと回答。
- ③放送大学の単位修得は7割が知っており、2年課程通信入学前に単位修得が可能な事は半数が知っている
- ④入学要件の修業年限短縮報道については「知らない」が「知っている」をやや上回った。
- ⑤2年課程通信制の入学要件・准看護師実務経験が短縮になったら、2年課程通信制への進学を考えるかの問いには、「考える」「考えない」ほぼ同数。
- ⑥進学を考えているか否かによる違いについては、進学を考えているグループは修業年限の短縮報道も知っており、放送大学の入学前単位修得についてもどこにあるかも知っていると回答。つまり困難な状況の中でも、さまざまな状況をとらえて情報収集していることがうかがえる。
- ⑦自由記載では122名から、県内に2年課程通信校がほしい、進学のための経済的なゆとりがない、奨学金、生活が成り立つために、研修としての位置づけ、賃金・役割・研修とあまりにも違いすぎる、みんなが看護師に移行する・切り替えないと矛盾は続く切実な声が寄せられた。

### 今後の課題…16年2月厚労省へのパブコメ募集に仲間の会として出したものからの抜粋

1. 基本は、准看護師養成を停止し、看護師養成一本にすること。  
96年厚労省報告「21世紀初頭をめどに准看護婦養成停止」を実践させること。准看護師要請を停止しないかぎり、矛盾は続きます。その上で看護制度一本化への道(移行措置)を開くこと。
2. 2年課程通信の入学要件は大幅な短縮、3年、長くても5年とすべき。  
現在2年課程の入学要件には、高卒であれば准看護師経験の有無は問うていません。  
そもそも、経験10年以上とした議論は、現在の2年課程通信ではなく「看護師への移行教育」として検討されたものです。
3. 入学要件10年の経験を短縮した中で、現状の2年課程通信の改善について
  - 1) 厚労省が当初計画した各県1校の養成所を実施すること。  
勤務地・住居地の近隣に養成校がないため、遠隔地への通学(実習も含め)を余儀なくされ、通学生の負担をより大きくしている状況がアンケートからも浮かび上がっています。  
各県任せではなく、義務化すること。准看護師養成を停止すれば自ずと対象者は年々減少するので、時限的な措置を取るべきです。
  - 2) 実習は、短い期間ではあっても、シャドーイングではなく、実際に患者さんに触れたいという意見も多数寄せられています。現在の実習受け入れ現場の状況では、看護師不足も含め、実習生にきめ細かく対応するのは難しい状況が多くあります。  
国の予算で学校側、もしくは実習受け入れ先に、指導者を配置することが必要。  
実習レポートの簡略化。
  - 3) 2年課程通信制学生を対象にした奨学金制度を国の責任で行うこと。  
現在は、職能団体の奨学金と、各自治体の奨学金、そして、准看護師の勤務する医療機関等の奨学金制度があるのみであり、自治体でも2年課程通信制は対象外としているところ、まして事業所によっては全く支援策のないところも多い状況です。

### おわりに

今回は、神奈川県内の准看護師を対象としたアンケートだが、制度問題は長年の看護師の願い、全国的な取り組みの端緒にできればよいと考える。